



▲フィリピンのブースでは、英語でカードゲームに挑戦

英語で伝える楽しさを体験！ 古河イングリッシュ アドベンチャー2026

7月22日～24日、共和電設とねミドリ館で「古河イングリッシュアドベンチャー2026」を開催しました。

会場にはドイツやアメリカなど、世界7カ国のブースが設けられ、市内小学生が各国の観光地や食べ物等について英語で学びました。また、ALT(外国語指導助手)とゲームをしながら楽しく英語を学習し、学んだ英語を活用して「何を食いたい」「何を買いたい」などやりたいことを英語で伝えていました。



▲約800基の幻想的なあんどんの明かりが、多くの人を魅了しました

出城の森を包む幻想の光 夢あんどんと夕涼み

8月14日・15日、古河歴史博物館・古河文学館周辺で夢あんどんと夕涼みを開催しました。

会場では、暗闇を優しく照らすあんどんの展示に加え、荘厳な神楽の公演や紙芝居、パネルシアターなどのイベントも実施。歴史ある景観に溶け込む幻想的な空間を作り上げました。

来場者は水面に揺らめく優しい光を眺めながら、心地よい夏の涼を感じていました。

建設的対話が差別をなくす！ 古河市人権教育講演会

8月4日、野本電設工業コスモスプラザで古河市人権教育講演会を開催しました。

全盲の弁護士である大胡田誠氏を講師に迎え「対話こそ共生社会を開くカギ」をテーマに講演。自身の体験や障害者差別解消法のポイントについてユーモアを交えながら語り、対話を通して互いを理解し合うことの大切さを伝えました。



▲優しく穏やかな口調で講演する大胡田氏

交流を深めたひと夏の思い出 歴史で結ぶ真室川町と 古河市との少年少女の集い



▲ASE(協力して課題を解決する体験)に取り組む児童たち

7月31日～8月2日、姉妹都市である山形県真室川町の小学生が本市を訪れ、総勢40名による交流事業を実施しました。

児童たちは、歴史的に縁のある鮭延寺の参拝や篆刻体験などを行ったほか、古河花火大会を鑑賞。この3日間で行ったさまざまな体験を通じて、互いの絆を深めることができました。

その瞬間、その行動が命を救う 地域防災勉強会

7月25日、TSURUTAふくろうの森プラザで地域防災勉強会を開催しました。参加者は水害が迫った時の避難行動を、ゲームを通して楽しみながら疑似体験し、身を守る具体的な行動や、日頃から備えておくことの大切さを深く学びました。

勉強会は9月11日・26日も開催します。自分や家族の命を守るため、ぜひ、ご参加ください。



▲サイコロを使ったゲーム形式で防災意識を高めました

食べれば惚れる「惚ろにがうり」 にがうりの収穫が最盛期



▲奈桐さん(左)に教わり、収穫を体験する近藤副市長

県指定銘柄のにがうりが収穫時期を迎え、7月16日に近藤副市長が市内農家を訪問しました。

「惚ろにがうり」の愛称で親しまれる市産のにがうりは、ビタミン豊富で栄養価が高く、品質の良さから市場でも高い評価を受けています。生産者の奈桐さんは「夏バテ防止や美肌効果も期待できる」とその魅力を熱く語ってくれました。